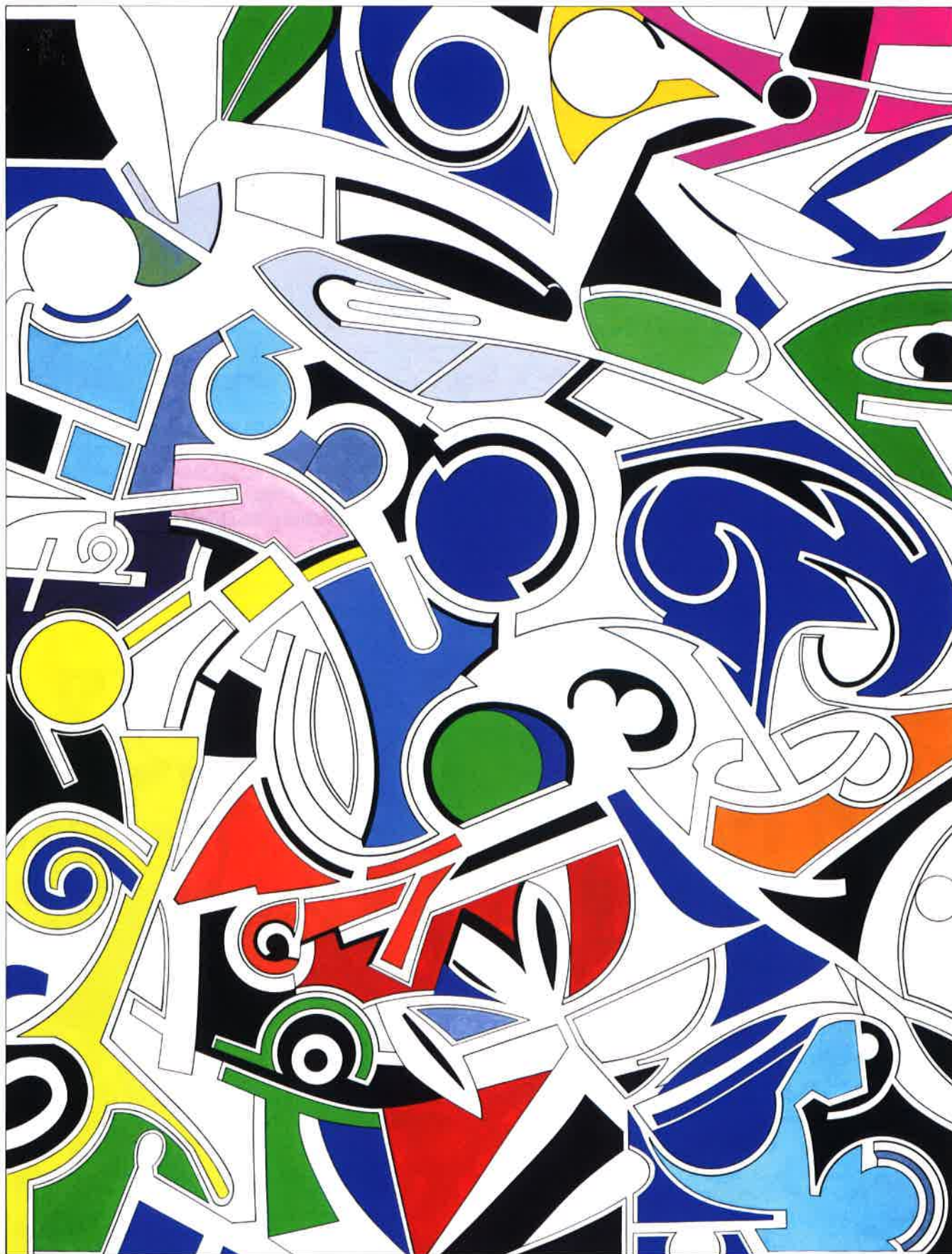




KALEIDOSCOPE 2004-05

アクリル カンバス

もののあはれ - 移ろう光と影 -

2025. 11.22 - 2026. 3.28

開館日 毎週火曜日、木曜日、土曜日

開館時間 10:00 - 16:00

※年末年始の期間(12.29-2026.1.3)は事前予約が必要

◇一般入館料 1,000円 (高校生以下は無料)

◇トリムフレンズ会員は無料、同伴者1名に限り500円

★下記の土曜日(午後1時から2時まで)は、川島猛が美術館にいます。

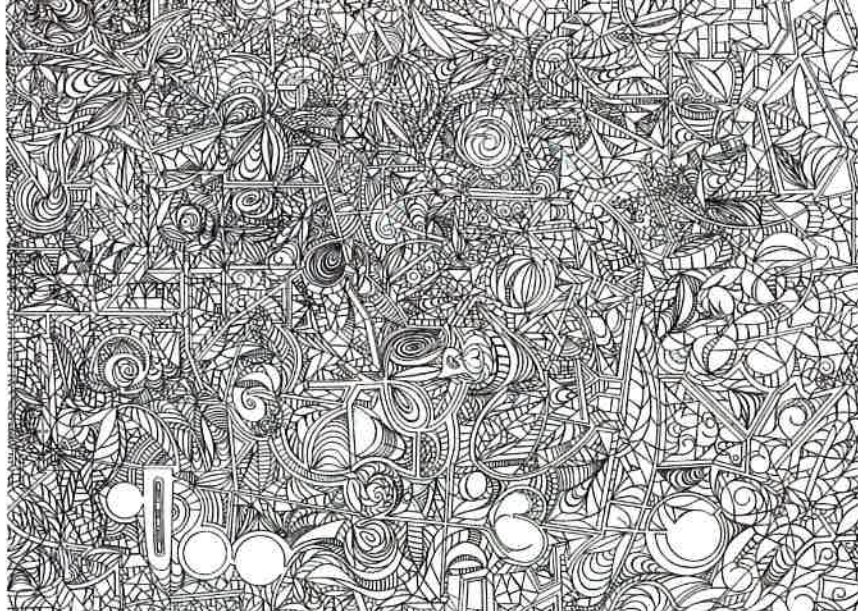
11月22日(土)、2026.2月14日(土)、3月28日(土)

Takeshi Kawashima
Art Factory
Museum



川島猛アートファクトリー
ミュージアム

TAKESHI KAWASHIMA ©



日本には古くから、自己主張をあえて避ける風潮があります。消極的なのではなく、距離を保ち己の感情に少しずつ歩み寄ってもらうことで、より深い共感を得ようとしているのです。日本人の意思疎通とは、回りくどく、欧米人の率直な物言いとは対照的に感じられます。西欧における古典絵画の場合もまた、写実が対象把握の直接的な表現とされ、何も足さず、何も省かないことが絵画の本質になります。対して日本の伝統的な絵画には、色彩の単純化と幾何学的な抽象形体へと還元された対象に、際立つ情感の再現を試み、巧みな工芸技法によって描かれた浮世絵には、色と形の調和があり、躍動感があります。人々が行き交う街並みや夕暮れ時の遠景には情緒あふれる風情があり、繊細な心の動きが写し出されています。古来より“もののあわれ”という言葉には、様々な心模様がひしめき、流れていく時間にさえ優しさが感じられます。

2001年ニューヨークでの悲劇により、川島は制作から遠ざかっていましたが、翌年には制作を再開し、およそ3年間連作に意欲的に取り組みました。川島が手がけたのはカレイドスコープ(万華鏡)の、偶然に隣り合う光の集合体を作り出す、儚くも切ない感傷的な美の追求に目覚めたことに始まります。それは、“もののあわれ”に想う自然と人が共演する日本的感傷の物語に喩えられるでしょう。本展覧会では、カレイドスコープと題されたおよそ30点を紹介します。あわせてギャラリーC展示室にて「ドリームランド 白昼の奇跡」と題して1月24日まで開催します。



KALEIDOSCOPE 2004-05 アクリル カンバス



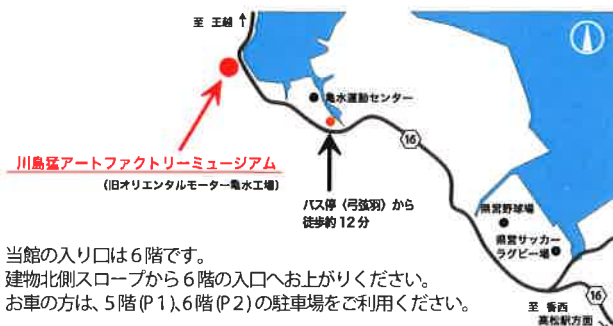
KALEIDOSCOPE 2004-05 アクリル カンバス



公益財団法人 川島猛アートファクトリー
〒761-8001 香川県高松市亀水町 1411
TEL 087-802-6888
FAX 087-802-2689
<https://kawashima-af.com>



彫刻の広場 'WHY BORN SQUARE'



当館の入り口は6階です。
建物北側スロープから6階の入口へお上がりください。
お車の方は、5階(P1)、6階(P2)の駐車場をご利用ください。